

然環境課。

稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.

永幡嘉之, 2016. マルコガタノゲンゴロウをとりまく諸問題. 昆虫と自然, 51(7): 9-14.

西原昇吾・梅村信哉・保科英人, 2016. 福井県におけるマルケシゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ, (20):

50-51.

渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.

(2016年10月31日受領, 2016年12月21日受理)

【短報】グリーンアノールによるオガサワラタマムシの捕食例

グリーンアノール *Anolis carolinensis* Voigt (以下アノールと略称) は, 戦後, アメリカ統治時代の小笠原諸島の父島, 母島, 兄島に侵入・定着し, その捕食によって在来の昆虫類に多大な影響を与えていると考えられるアメリカ合衆国南東部原産の特定外来生物である。

2012年6月27日に東京都小笠原村母島の堺ヶ岳付近にて筆者の一人である児嶋が, アノールがオガサワラタマムシ *Chrysochroa holstii* Waterhouse を頭部から縦に6割ほど咥え込んでいる状況を目撃(図1)したので報告する。なお, アノールによるオガサワラタマムシの捕食事例は初であると考えられる。

発見に至るまでの過程は, 児嶋が大型の昆虫類の羽音を聞いた直後に, 捕食した状態を確認したため, アノールがオガサワラタマムシの飛来を待って捕食に及んだことも考えられた。その後は, 咥えなおす行動を継続的に行ったため, 頭部と胸部がほぼ分離した(図2)。



図1. 目撃時の状況。



図2. 咥えなおす行動により, 頭部と胸部が分離した状態。

楨原ほか(2004)や苜部ほか(2004)によって行われたアノールの喫食実験の結果では, オガサワラタマムシは最大35mm程度と大型かつ体が硬いため, 積極的に襲うことはないと考えられていた。しかしながら, 苜部ほか(2004)がオガサワラゼミ *Meimuna boninensis* (Distant) の捕食事例を挙げて示唆しているように, アノールが嗜好する小~中型の好適な餌資源を食い尽くした場合, オガサワラタマムシのような大型種など, 本来は捕食しなかったものへ標的が変化していくことも考えられ, 仮にアノールが標的を嚙下せずとも個体に与えるダメージは相当なものであり, その影響は大きいものと考えられた。

本短報は環境省による「平成24年度小笠原群島母島及び離島の希少野生動植物生息生育状況等総合調査」での目撃例である。発表の機会を与えていただいた環境省関東地方環境事務所・小笠原自然保護官事務所の尼子直輝主席自然保護官と岸秀蔵自然保護官にお礼申し上げる。

引用文献

- 楨原 寛・北島 博・後藤英章・加藤 徹・牧野俊一, 2004. グリーンアノールが小笠原諸島の昆虫相, 特にカミキリムシ相に与えた影響-昆虫の採集記録と捕食実験からの評価-. 森林総合研究所研究報告, 3(2): 165-183.
- 苜部治紀・須田真一, 2004. グリーンアノールによる小笠原の在来昆虫への影響(予報). 小笠原における昆虫相の変遷-海洋島の生態系に対する人為的影響-. 神奈川県立博物館調査報告研究(自然科学), (12): 21-30.

(永野 裕 130-8606 東京都墨田区江東橋3-3-7 一般財団法人自然環境研究センター)
 (児嶋 翼 100-2211 東京都小笠原村父島字西町ガゼボ2階 環境省小笠原自然保護官事務所)
 (岸本年郎 422-8017 静岡県駿河区大谷5762 ふじのくに地球環境史ミュージアム)